

竹下復興大臣ぶら下がり記者会見録
(平成27年3月29日(日) 12:46～12:53 於) 福島県湯川村)

1. 発言要旨

本日は、会津若松市と湯川村を視察・訪問をさせていただきました。会津若松市では、富士通の野菜工場をしっかりと見せていただきましたし、年貢町に造っております復興公営住宅、完成したものと、それから今建てている最中のものと、見せていただきました。

そして今、最終的にこの湯川村に、CLTのこの共同住宅を視察させていただき、いろいろお話を伺わせていただきました。

この途中で、鶴ヶ城も拝見をいたしましたし、観光業者・業界、食品ですとか、あるいは土産物ですとか、あるいはお酒ですとか、そういう皆さん方と風評被害の実態について、議論をさせていただきました。議論というよりも、実情を伺わせていただいたというほうが主力でございましたが、そういう意見交換を伺ってきたところでございます。

会津若松市に大熊町が町役場を持っておりまして、その渡辺町長とも意見交換をいたしました。やっぱり「帰りたい」という思いの強い皆さん方へ、どう対応していくか。「帰らない」と、「新しい所で人生設計するんだ」という人には、その人に合った対応をしてほしいと。「帰りたい」という人には、「帰りたい」という対応をしてほしいという、お一人お一人の事情に合ったような対応をしてくれという、強い要望をお受けいたしました。

また、観光業界の皆さん方は、本当に困っていらっしゃる。特に、修学旅行が半分になっておるといふ厳しい実態をお伺いいたしましたし、これに対して、「自分たちも頑張るから、政府としても、できることを最大限にやってくれ」という、非常にいい形の話し合いをさせていただきました。何でもかんでも「国が何とかしろ」じゃなくて、「自分たちが頑張るから」という強い思いを感じることができまして、「あ、この地域は必ず力を取り戻すな」ということを、改めて感じた次第でございます。

そして、最後に、このCLTの住宅を拝見させていただきました。菅家社長や、それから湯川村の村長さんが、本当に早い決断で「これを使おう」と、これからの、山が多い福島にとって、ふるさとが立ち上がっていくには、ある意味これしかない、これがふるさとの軸だというような思いを、お二人から熱心に伺うことができまして、国としても、今はまだ、正式に様々な手続きの認可が、極めて厳しい状況にございますが、既にヨーロッパでかなり普及しているということもございますし、これからの山が多い日本の将来を考えた場合に、このCLTの住宅というのは、大きな大きな活力の起爆剤になると、私自身も山に非常に強い関心を持っておる一人として、感じましたので、政府の中で、これは議論を加速化させて、そう時間をかけずに、日本国としての方向を出していく、という形で対応させていただき、普及をさせていただくという方向で、力を注いでいこうと、今、感じておるところでございます。

私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 今ほどお話しいただいたCLTなんですけれども、その具体的な今後の位置付けというのを、大臣、お考えでしたら、お伺いいたします。

(答) いや、まだそこまでの手順がしっかり見えているわけではございませんが、1つは、縦横に組み合わせていきますので、今、試験をやっておりますが、耐震性の問題について、早く結論を出すと。それから、もう1つは、火災に強いということを、実験を繰り返ることによって、これも結論を出すと。さらに、コストはどうだと。さらに、もう1つ言いますと、その原料となる木は、日本に、ある種、無限にあるわけでありますので、そういったことがうまく流れるような、うまく使えるような、形に持って行こうと、こう思っております。

ちょっと、「時間的に、こうこう、こうです」ということを、今、言える状況にはございません。

(問) 大熊町役場で、常磐道のインターチェンジについて、大臣のほうからお話しされ、大熊と双葉に、近いうちに発表できるんじゃないか、というようなお話もされたやに、伺ったんですけど。大熊、双葉について、今のところ、造ることは前向きに政府も考えていらっしゃるんでしょうけども、具体的にどの辺に造るなんていうお話まで、詰まっているんでしょうか。

(答) 昨日だったか、一昨日だったか、東京で「4カ所造れ」という要望を受けましたが、話の熟度といたしますか、いろんな議論の熟度が進んでおりますのが、大熊町と双葉町が要望しておるインターであります。

私は決定権者じゃありませんので、「こうこう、こうします」ということを言えるわけではありませんが、国交大臣と話しておりますと、近いうちにこの2つについては結論を出す、ということをおっしゃっておいしましたので、今日はそのことを、私は国交大臣からそう聞いており、私も「近いと思うよ」という話をしておきました。

(問) 今の関連の質問なんですけど、大臣ご自身のお考えとしては、インターチェンジについてどうあるべきというお考えは。

(答) まず2つ、先行して造れという思いを、僕は持っておりますので。中間貯蔵施設の関係もあるし、これから、まちづくりというよりも、一番厳しい、帰還困難区域が動き出す起爆剤に、イグニッションキーになるんじゃないかな、というふうにも考えておりますので、造るべきだと、こう思っております。

ただ、その思いは、国交大臣には「俺はこう思うよ」という話は、以前からしてはいるんですが、国交大臣もいろいろ考えられて、いろいろ検討された結果、「近いうち」ということをおっしゃっているんじゃないかなと、こう思っております。

(以 上)